

1. 評価結果概要表

作成日平成 20年3月11日

【評価実施概要】

事業所番号	3670101819
法人名	医療法人 慈成会
事業所名	グループホーム ほほえみ
所在地	徳島県徳島市津田西町1丁目9-5 (電話) 088-663-3428

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成20年 3月 4日

【情報提供票より】(平成20年 2月 19日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 3月 1日
ユニット数	1 ユニット
職員数	利用定員数計 9 人 常勤 6人, 非常勤 2人, 常勤換算 7.3人

(2)建物概要

建物構造	木 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	29,000 円	その他の経費(月額)	実費
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 550 円
	夕食	550 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(2月19日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 83.6 歳	最低 75 歳	最高 95 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 慈成会 寺沢病院
---------	---------------

徳島県 グループホームほほえみ 1

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>利用者は地元出身者が多く、地域とのかかわりが深い。家族の来訪も多く、地域に密着した馴染みの関係を重視した支援ができています。また、隣接の母体医療法人との連携が密に図られており、利用者、家族にとって医療面で安心した生活が送れるよう支援されている。</p>

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価において出された改善課題は全職員で話し合い、すべて改善されていた。パンフレットへの理念の明記や具体的な介護計画の策定、計画的な介護計画の見直しなど、積極的に改善に向けた取り組みを行っている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は全職員が参加し、事業所の課題を分析し課題を見つけ、改善に向けた取り組みを行っている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、利用者・家族・地域代表の民生委員・地域包括支援センター職員・事業所代表者・職員からの構成となっている。会議は2ヶ月に1回開催されている。また、災害対策の討議結果を反映し、消防署や地元消防団の協力のもと災害対策が実施されるなど、活発な意見交換やそれを活かすための取り組みができています。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の来訪時には、職員と直接話す場を設け、意見や要望、苦情等を聞いたり、利用者の日々の様子を伝えたりと、双方向的な会話になるよう配慮している。会話の内容や気づいたこと等は記録に残し、職員間での共有も行われている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>事業所に隣接して家々が建ち並び、顔なじみの関係が築かれ挨拶もされている。また、老人会や婦人会など、地域の人々と日頃から交流し、神社でのお祭りや事業所の前にある大きな桜の下での花見など、積極的な取り組みができています。</p>

社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての理念にそった事業所独自の基本理念が全職員参加のもと作成されていた。また、「明るく・笑顔で・ゆったりと・ゆっくり・一緒に・楽しみながら」といった言葉を盛り込んだ一人ひとりのその人らしさを大切に生活を支援する内容がパンフレットにわかりやすく表記されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は毎朝のミーティング時に斉唱し日々の具体的なサービスに反映させられるよう常に話し合い実践に取り組んでいる。また、利用者が安心して暮らせるように職員は常に笑顔で接している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者は地元出身者が多く、日頃から地域の人たちとの交流ができています。地域の老人会や婦人会、近隣住民との連携もあり、神社のお祭りや秋祭りの招待を受けた時には積極的に参加している。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は自己評価及び外部評価の意義・価値を理解しており、前回の外部評価の改善課題についても全職員が検討し、具体的にサービス向上へ活かせるよう取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には利用者・家族・民生委員・地域包括支援センター職員・事業所職員からの構成で2ヶ月に1回、開催されている。会議では活潑な意見が出され事業所運営に活かされている。会議の内容等は記録し、保管されており、職員間での情報共有もできている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月、入退居の報告を郵送している。しかし、それ以外に直接担当者と行き来する機会はない。	○	入退居の報告書を窓口に持参するなど行き来する機会を作り、市町村とともにさらなる質の向上に向けた取り組みが期待される。
付け					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族面会の際に詳しく利用者の様子を報告している。また、ホーム便り、金銭出納簿のコピー等も送付されている。利用者の健康状態に変化が見られる時にはその都度連絡がされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が気軽に意見を言いやすいように意見箱を設置している。また、日ごろから家族はホームに出入りしているので職員との話し合いが行われ、意見を聞くことができている。苦情・意見等は全職員が共有し、改善を図っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は最小限にしており、利用者や家族との信頼関係を築くためにも馴染みの関係づくりに努めている。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は全職員が参加している。法人外の研修は勤務調整をして全職員が受講できる体制がなされている。また、希望する研修にもできる限り対応している。研修内容は職員会議のときに報告され、職員間で共有が図られている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内の研修に参加したり、実践者研修の受け入れを行うなど、同業者との意見交換や情報収集を通してサービスの質が向上されるよう努力されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の見学や体験利用で、利用者や家族が安心し、納得のうえサービスを開始できるように配慮している。入居当初は家族に面会を依頼し、場の雰囲気に少しずつ馴染めるよう取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者のできること、できないことを把握し、得意な分野の力を発揮できる場面づくりをしたり、職員が利用者の方から生活の知恵などを教えてもらうなど、共に支えあう関係を築いている。		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活歴を把握しており、一人ひとりの希望、意向を聞きながら、本人の意思を尊重した生活が送れるよう支援がなされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者からは、毎日の生活の中で要望を聞き、家族からは、来訪時に聞いて情報交換したうえで計画を立てている。カンファレンス時には全職員が参加し、個別具体的な介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3ヶ月に1回行っている。心身の状態の変化が見られた時にはその都度見直されており、利用者、家族の要望を反映した計画となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者・家族の希望や要望に応じてかかりつけの医院への付き添いなど柔軟な支援が図られている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院への付き添い時にかかりつけ医から病状の報告を受けたり、治療方針の相談をする等、関係を築きながら適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた対応への方針は入居時に家族を含めた話し合いがされている。医療行為が必要な時には利用者、家族、医師、事業所との話し合いがなされ、全員で方針を共有している。		
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排せつ介助時の言葉かけ等は、他の利用者に気付かれないように周囲への配慮がされている。全職員に対して個人情報保護についての徹底が図られ、書類等の管理体制も整備されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調やペースに配慮しながら利用者の要望を聞き、入浴、散歩、買い物などの支援がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は母体の病院から運ばれてくるが、盛り付け、配膳、後片付けを職員と共に行っている。嗜好調査を定期的に行い献立に反映されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、入浴できる体制ができている。利用者の希望する時間に沿った入浴をしているが、入浴を好まない方には言葉かけのタイミング等で臨機応変に対応し、1日1回入浴ができるよう、プライバシーに配慮しながら支援をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	手先が器用な方は手芸を楽しむ作品を作るなど、利用者の能力に合わせた役割の場面を提供している。また、作品は玄関に飾り、外来者からの感想をおして役割の認識や楽しみ等を感じられるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	下肢筋力低下等により、毎日の外出ができなくなっているが、自然に恵まれた敷地内に出て、外気に触れる機会を積極的に取り入れている。		
りよ					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関の施錠はされていない。利用者が外に出たい様子が見られた時には、一緒に出かけるなど安全面に配慮を行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の防災訓練を母体病院と連携し、実施している。また、運営推進会議を活用し、地元消防団との連携や夜間を想定しての避難訓練への取り組みも、事業所独自に行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの栄養摂取量や水分摂取量、食事量を記録しており、職員間で情報を共有している。母体の管理栄養士との連携のもと、一日の必要量が確保できるように支援されている。		
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームは全てバリアフリーとなっており、共用空間は天井が高く明るく、日当たりも良い。和室の部屋や、季節感を採り入れることで、利用者が快適に過ごせるよう環境への配慮がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時や面会時に、本人・家族との話し合いのもと使い慣れた家具等を持ち込んでいる。		